

情報・コミュニケーション

現状と課題

- 近年の情報通信技術の発達により、障害者が情報の受発信をすることを容易にするのみならず、社会参加の機会が広がることや、就業の機会の拡大につながることから大きな関心事となっています。情報の入手や利活用の場において、格差が生じないように支援する必要があります。
- 障害者のコミュニケーションを支援する人材の養成を実施していますが、全市町村に設置されるよう支援していく必要があります。
- 視覚障害者や聴覚障害者などに対する情報提供については、*県立点字図書館や*広島県聴覚障害者センターにおいて各種事業を実施していますが、今後も引き続き実施していく必要があります。
- 県の広報紙、番組とも、限られた紙面、時間の中で一定の情報量を保つ必要があるものの、可能な限りユニバーサルデザインの考え方に基づいた広報活動を今後も行っていく必要があります。

今後の取組

1 利用しやすい情報環境の整備

情報バリアフリー化の推進

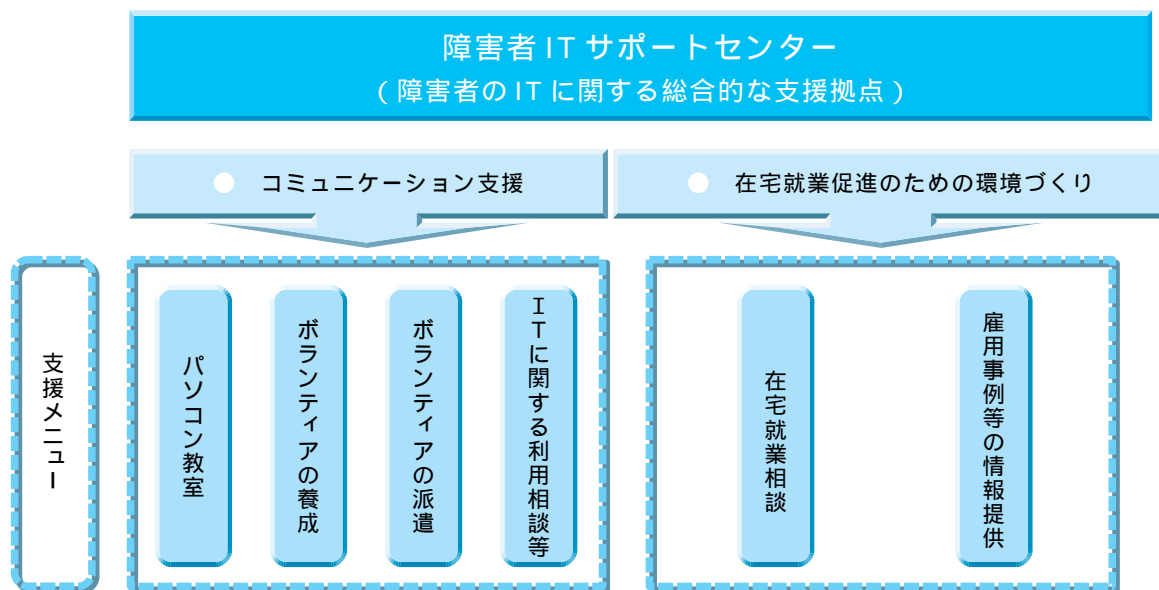
- パソコン操作の指導を行うパソコンボランティアの養成・派遣、IT関連情報の提供などを行い、障害者の情報格差の解消を推進する障害者ITサポートセンターを設置します。
- 重度の視覚障害者及び上肢不自由者がパソコンを利用する際に必要となる周辺機器などの購入に対し助成を行います。
- 日常生活用具の情報関連機器の周知と普及に努め、障害者の情報バリアフリー化を支援します。

障害者ITサポートセンターの概要

情報技術を利用した障害者の社会参加，経済的な自立を促進するための総合的なサポート体制の構築を図ります。

障害者の情報格差を解消するためのコミュニケーション支援

パソコンなどの情報機器を活用した在宅就業を促進するための環境づくり



情報提供の充実

- 全世帯向け広報紙「ひろしま県民だより～ふれあい」の点字版，テープ版の発行及び無料配布を継続します。
- テレビの広報番組については，聴覚障害者向けの「ふれあいひろしま」，「ちょっと教えて！広島県」及び「ふるさと通信」の字幕スーパーと，「おはよう！広島県」の手話通訳付き放送を継続実施します。また，文字多重放送を引き続き実施していきます。
- 「広島県政もみじファクス」（一部音声併用）による県政情報の提供や広島県ホームページを音声読み上げソフトに対応させるなど，県政情報の提供のため障害種別に対応したきめ細かい広報を引き続き実施していきます。
- 視覚障害者に対し送付する特別障害者手当等給付決定通知書などの障害者福祉に関する県の文書については，点字や*SPコードを添付するなど，引き続き分かりやすい情報の提供に努めます。
- 県立点字図書館において，点字図書や録音図書の整備，図書管理システムを一層充実させるとともに，視覚障害者情報提供施設としての機能の整備について検討します。

また，広島県聴覚障害者センターにおいて，テレビ番組などに字幕を挿入したビデオカセットの貸出サービスを一層充実するとともに，聴覚障害者情報提供施設としての機能の整備について検討します。

2 コミュニケーション支援体制の充実

- コミュニケーション施策の充実のため*手話奉仕員，*要約筆記奉仕員，*点訳・朗読奉仕員，*盲ろう者通訳介助者，*発声訓練指導者，*手話通訳者などの養成を充実します。
- 市町村におけるコミュニケーション支援をする人材の派遣体制の整備を促進し，特に，視覚と聴覚に重複した障害のある人に対する盲ろう者通訳介助者の派遣に努めます。

障害に応じたコミュニケーション施策

障害に応じた様々なコミュニケーション支援を行っています。
たとえば，聴覚障害者，視覚障害者に対しては...

聴覚障害者

（生まれつき聴覚に障害のある人（ろう者）や
発声言語を習得したあとに聴覚に障害をも
った人（中途失聴者・難聴者）など。

支援施設：広島県聴覚障害者センター

手話奉仕員，要約筆記奉仕員の養成・派遣
手話通訳者の養成・派遣
手話，字幕付き広報番組の放送
字幕入りビデオカセットライブラリーの貸出
県政もみじファクス，代理電話サービス など

視覚障害者

（視力の全くない人から弱視の人の他に，視
野欠損，視野狭窄，色覚異常等を伴ってい
る場合もあります。

支援施設：県立点字図書館

盲ろう者通訳・ガイドヘルパー養成
盲ろう者に対応した県ホームページの運用

点訳・朗読奉仕員の養成
点字図書，録音図書等の貸出し
点字版及び録音テープによる県広報紙の提供
障害者情報バリアフリー化支援

